

学びの実感

ことばのちからは 生きる力

計算のしかたをくふうしよう

◆事前検討会から◆

- ①あえて無地プリントを使用する。
 - ・指導案検討を学年部で重ねていく中で、1年生と同様に、児童の実態を十分に踏まえ、学習に集中できるものと考えて、無地を選んだそうです。
 - ・学習時間の確保のために、問題文は書かせない。
 - ・(括弧)を使って式に表す時に、自分の考えを絵や図で自由に表現できるようにするため。
- ②3口の計算です。最初の図の問題は、ペア学習するものの、前時の復習もあるので、簡単に進めていきながら、次の問題の時に時間をじっくり掛けようと配慮した取り組みです。
- ③話し方の工夫(状況設定)
 - ・はじめに・つぎにの表示を掲示しておく。児童が発表する際の手助けになるように工夫した。
 - ・計算の仕方が違っていても、正しい部分を見つけて褒めていく。褒めながら、正しく修正し児童一人一人を正しい考え方(計算の仕方)に導いていく。
- ④教師が求める「子供の考え」
 - ・昨年度の国語のように「教師が求める、児童から出るであろう反応」を設定しました。効果的なアナウンス(児童の導き)に活用するためです。「なぜ、このような計算をしたのか」考えるとき、発表するときのポイントとしました。
 - ☆青同士を足します。
 - ☆○と○をまとめました。○と○のまとまりを作りました。
 - ☆順序を変えて計算しました。順番を変えて計算しました。
 - ☆(括弧)を先に計算します。
 - ☆足すと20で計算しやすくなります。
- ⑤発問の工夫
教科書では「どのように考えたかいいましょう」だったものを「どのように考えたか書きましょう」に変更しました。何をすれば良いか児童が迷わないための配慮です。



【事後検討会】

〈自評〉※事後検討会は後日行うそうです。

〈参観者から〉

- ・前時の授業で筆算の学習をしたので、その定着度はとても高いようである。そのため、今回の教師が求めたい答え「計算の仕方」

ではなく、「筆算の仕方」がメインになってしまった。子供自身が、教師の求めている答えを想像する、理解する…できることはなかなか難しい。

- 計算の仕方（順番）を考える時に「買った順番」と「文房具」とに分けたことが、児童にとっても分かりやすかった。

【課題のリレー】（有効・・・○ 課題・・・●）

○「つなぎの言葉」を提示したのが良かった。発表意欲にもつながった。

- 国語の物語文同様に、一単元を通して、身につけさせたい力が何なのかを考え、そこに行き着くための、授業の流れの大切にした毎時間の発問の厳選が大切である
- 代表児童へ画用紙に転記させる際、他の児童の待ち時間をどうするか。

計算のしかたをくふうしよう

10月1日（火）に2年1組の佐藤典昭先生が『10年次研修』の授業に取り組みました。お疲れ様でした。単元は、啓子先生と同じ部分です。



〈参観者から〉

- つぶやきが盛んなクラス。大きくそれることがないのがすばらしい。
- 発表の際の「つなぎの言葉」を黒板に掲示しておくことで児童が分かりやすい。
- 発表の仕方が上手だった。
- アナウンスが分かりやすかったし、励みにもなっていたように思う。

- なるほど！
- この言葉、いいね。
- 次いってみよう！
- OKだよ。
- ちゃんと書いているよ。
- この言葉をうまく使っているね。 等々



〈自評〉一部抜粋

- 時間の使い方（時間をかけるところ、短縮するところ）をはっきりとした方が良かった。子供たちの、作業やペア学習の時間の確保のため。
- 子供の考えを十分に看取ることができなかった。

〈指導主事の先生から〉一部抜粋

- いちいち進行を確認することも大切ですが、子供たちを信じて「やらせてみる」ことも大切かも。

- 全体発表の際には、事前に書かせる方法や黒板に書きながら説明させる方法もある。子供の実態に応じて対応する方法もあります。
- 評価があるので、最後の適応問題までやらないと評価がでないでは？
- 時間を効果的に使いましょう。

次の授業は…

10月 9日（水） 1年1組 渡邊学級 『どちらがおおい』

10月10日（木） 1年2組 前谷学級 『どちらがおおい』

よろしくお願ひします。

乱筆乱文ですみません。修行していきます。m(._.)m